

## 協会から市民の皆さんへ

冬の市民生活を守るためになくてはならないものとなった除排雪事業（雪対策事業）。しかし、雪対策を取り巻く環境は経済・社会情勢の急激な変化によって厳しさを増しており、さまざまな課題を抱えています。

### 雪対策の課題 作業効率が落ちています

- 路上駐車が作業の支障になっています。
- 駐車場や屋根などから道路への雪出しがあります。
- 景気の低迷などから運搬排雪に必要なダンプトラック台数が減っています。



### 雪対策の課題 雪たい積場が遠くなっています

- 新たな雪たい積場の確保が難しい状況にあります。
- 雪たい積場が郊外化しています。
- 雪たい積場の多くが借地であり、所有者の利用計画により撤退を余儀なくされるなど、継続利用が難くなっています。

### 雪対策の課題 除雪作業の担い手や機械が減っています

- 除排雪事業の主な担い手である建設業の倒産や廃業、撤退が増えています。
- 除雪従事者の高齢化が進んでおり、後継者不足が懸念されています。
- 除雪事業者の経営体力低下などから、保有する除雪機械の更新が進まず、除雪機械の老朽化が進んでいます。



## みんなで支えよう雪のまち札幌

### 冬の市民生活ルールとマナー

#### ①玄関前の雪処理はご家庭で

除雪後の玄関前や車庫前の雪処理は各家庭でお願いします。



#### ②路上駐車はやめましょう

作業の支障になり、除雪できなくなることがあります。  
また、車に傷を付けてしまう危険もあります。



#### ③道路への雪出しはやめましょう

道路幅が狭くなったり、でこぼこになったりして交通事故や渋滞の原因になります。



#### ④ごみ出しは、収集日の朝に

除雪前にごみを出すと、除雪時にごみが雪に混ざり、その雪が排雪されて河川などを汚す原因になります。



# 札幌市除雪事業協会だより

発行／札幌市除雪事業協会 〒060-0032 札幌市中央区北2条東13丁目25-1E マジェスティーズ札幌403 Tel206-9457 FAX206-9458



大雪時にも対応可能な  
除雪体制の確保に向けて  
札幌市  
市長 上田 文雄



除雪体制の将来のため  
企業と人材の育成を  
札幌市除雪事業協会  
会長 乳井 文夫

札幌市除雪事業協会の会員の皆様におかれましては、日頃より札幌市の雪対策事業に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、多様化する市民ニーズや社会情勢の変化に対応した除雪体制を構築し、これまで一貫して、厳しい気象条件のもと、大変過酷な業務を担っていただき、心より感謝する次第であります。

特に昨年度につきましては、記録的大雪の中、迅速かつ適切な除排雪作業にご尽力いただき感謝申し上げます。市民対応の第一線で様々なご苦労をされたことと拝察いたしますが、皆様のご協力のもと、安全な市民生活が確保されたものと考えております。

さて、札幌市では、過去の大雪を踏まえ、その対応指針を制定し異常な降雪時に、市の関係部局が一体となって、雪害を未然に防止し、あるいは最小限に抑えるための体制を定めております。

この対応指針を確実に運用し、大雪における道路交通を緊急に確保するためには、迅速かつ適切な除排雪活動を実施するとともに、市民のご理解ご協力が不可欠であります。

このため、作業面では、皆様のご協力のもと、マルチゾーンを越えた応援体制を敷き、しっかりと対応するとともに、市民に対し通常時の除排雪作業時にも行っている作業情報を迅速かつ適切に提供してまいりたいと考えております。

最後になりますが、雪対策事業に対する皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、これから札幌市除雪事業協会の益々のご発展と皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、ごあいさつをいたします。

今年も冬本番を迎えて、本格的な除排雪作業が行われる季節となりました。札幌市除雪事業協会は、厳冬期に向け除排雪作業の安全について、その決意を表明するとともに、関係各位にご協力をお願いし、総ぐるみで除排雪作業を推進し、併せて、市民の皆様のご協力をお願いいたします。

さて、昨シーズンを振り返ると、年明けから例年を超える積雪があり、排雪を12月にスタートした地区もございました。年が明けてからも例年を超える降雪量、積雪量が続き、気温も低めに推移したため、2度にわたって補正予算が組まれ、除雪費は当初の6割増しの155億円に達し執行額として過去最大規模となりました。

長く続いた公共事業削減の影響で会員企業を取り巻く環境にまだまだ厳しいといえます。しかし、そのような状況にあってもこの異例ともいえる大雪のシーズンの除排雪作業を無事に終えられたことを会員の皆様に感謝申し上げます。

昨シーズンの大雪は、札幌市の除雪体制が抱える課題を浮き彫りにいたしました。雪たい積場の不足と排雪距離の延長による作業効率の低下、排雪トラックや除雪機械、人員の不足などの課題を思い知らされたシーズンだったといえます。長引く気温低迷の影響で不足した人材や機械は大雪が降ったからといってすぐさま補充できるものではありません。当面は作業の遅れも覚悟しなければならない状況ですが、安全を第一に除雪作業を進め、協会といしましても技術向上に必要な委員会の設置や講習会の開催、札幌市への要望提出などを通じ、会員企業と人材の育成の一助となる取り組みを今後も進めていきたいと考えております。

これから本格的な除排雪作業が始まります。パートナーシップの観点から、市民・行政・企業の三者が連携をより一層深め、それぞれが担う雪対策の役割を認識して頂きたいと思います。市民の皆様には、なお一層のご理解とご協力を頂き、路上駐車やその他諸問題と共に考えて参りたいと思います。現場第一線の会員企業社員の方々のご苦労は計り知れないものがあると思いますが、気象及び地域の状況をよく把握し、住民の立場に立って除排雪作業をして頂きたいと思います。最後になりますが、除排雪作業の安全及び関係各位のご健勝を御祈念申し上げ、ご挨拶をいたします。

## 2013年 協会のできごと

### ■道路維持除雪センター長意見交換会（2013年6月3日）

#### 積算見直しやダンプ確保に意見が集中。市民のモラルを問う声も

シーズンを終えた雪対策事業での課題や問題点を抽出し今後の体制充実に活かすため、毎年開催している意見交換会を札幌コンベンションセンターで開催し、23地区のセンター長が市建設局の担当者に意見・要望を伝えました。

除雪に関しては、積算の見直しやダンプの確保対策に意見が集中し、夏の道路維持では幹線や準幹線の状態を良好に保つために修繕費の増加を求めました。

雪対策室の高松康廣室長は「昨シーズンは記録的な大雪で、出動回数、排雪量ともに5割増しました。ダンプの確保や市民との連携のあり方などに制度疲労が生じ、見直す時期に入っています。最前線で働く皆さんの意見を反映していかたい」と協力を呼びかけました。

意見交換では、「排雪ダンプの台数が足りず10台程度応援してもらったが、宿泊費用はこちらで負担した。共通仮設費に含んでいる経費では足りない。定率の再考をお願いしたい」とのセンター長の訴えに、雪対策室はマルチごとや区ごとの連携方法を検討すると回答。ほかに「きれいにしても住民が次から次へと道路に雪出しある」「除雪の方向性が曖昧。市民に対してどの除雪はやるのか、どこを我慢してもらうのか、限られた予算の中でできることを市民に伝えてほしい」、「昨年度は3回の補正予算が組まれたが、その分なんでもやってもらえると思っている住民がいる」など市民のモラルを問う声や市民への制度の周知を求める声や、「オペレーターの確保が大変。若い人を育てられる体制づくりを」といった人材育成面での支援を要請しました。

また夏の道路維持では「幹線道路の舗装剥離がひどく、管理責任を問われかねない。これを避けるため、冬期間からできるだけ穴埋めしているが追いつかない。修繕費を増やすしてほしい」との切実な声も聞かれました。



### ■代表者懇談会（2013年6月24日）

#### 市の担当者と率直に意見交換。市民へさらなる情報発信を

会員企業の経営者121人が昨年度の道路維持除雪業務を振り返り、課題の改善策などを札幌市雪対策室の担当者と話し合う代表者懇談会が札幌コンベンションセンターで開催しました。

懇談会に先立ち乳井会長は、道路維持除雪をめぐる難題のうち数点に絞って改善要望を市へ提出済みであることを報告した上で「率直な意見をもらい、次のシーズンの業務に反映していかたい」と協力を求めました。

自由討論形式で行われた意見交換では「間口処理などでは単なるわがままと思える苦情が多く、現場職員の精神的な負担が高まっている」との意見に対し、市の担当者は苦情対応の強化のため外部講師を招いて講演会を開く考えを伝えました。

担当区ごとの意見・要望では次のような意見が出ました。  
「平地部と山間部では排雪量、難度があり違う。単価の割り増しをしなければダンプが集まらない」（中央区）、



「道路への雪出しに対する市条例などの整備をお願いしたい」（中央区）、「限られた予算の中でやれることとやれないことがある。市民に情報発信を」（東区）、「昨シーズンのように大雪のときには4月に入っても残作業が多くあった。4月に入ってからの設計変更でも良いのでは？」（白石区）、「雪たい積場が遠方になったことが一因でダンプ確保が難しい。業者がダンプを確保することに限界を感じているが今後の対策は？」（豊平区）、「大雪の影響でバス会社から拡幅の要請が例年になくなかった。昼間の急な要請もあったが、除雪時に対応できるようにしてほしい」（清田区）、「区の土木センターへの苦情対応ですが、業務担当者以外が受けた場合にセンター任せにすることが多々発生している。土木センターの苦情処理方法を徹底していただきたい」（南区）、「民間排雪業者が作業してきれいになった個人宅に対して、除雪した際に道路の雪を置いていったという苦情が増えている。何らかのルールが必要」（西区・手稻区）

夏の道路維持に関しては「今年のように大雪で舗装の痛みが激しい年は、優先的に舗装修復を実施してほしい」として受け持ち路線の破損状態に応じた優先的な予算配分が要望されました。

市の担当者は「舗装修復は春先ではなく、夏場に徹底するのが基本。予算を確保しメリハリをつけて取り組みたい」と感じました。

### ■定期総会（2013年8月2日）

#### 乳井会長を再任。3委員会の設置とオペレーター講習会の開催も

札幌コンベンションセンターで開催した2013年度定期総会では、任期満了に伴う役員改選で乳井文夫会長（見栄興業）の2期目続投を了承しました。

冒頭、乳井会長は「札幌の人々の生活を支える除雪体制を維持できるよう、少しでも多くの仕事をわれわれ会員企業が受注できるように市に働きかけていきたい」との考えを表明しました。

今期の事業計画では、除雪機械操作の技能向上を目的として若手オペレーターを中心とした講習会の開催を決定。市と「力し23マルチを対象に幹線道路などでグレーダー操作などの技術向上に取り組むもので、排雪が始まる前の年末頃に開催する予定です。

会員の経営安定につながる施策では、除雪事業参画業者への優遇措置となる政策入札制度の拡充や業務全般の最低保障、歩掛かりなどの実態調査と改善を引き続き市に求めいくことを掲げました。市の雪対策室では2013年度除雪業務で歩掛かりなどの一部見直しに着手いたしました。今回の見直しでは、歩道除雪の小型ロータリーと運搬排雪の近距離運搬の作業効率を変更。小型ロータリーは、時間当たりの距離を100m伸ばし、運搬排雪は時間当たりの作業量を50m減らすことで実質的な単価の増減につなげています。ダンプトラックの確保に関する経費についても1%の上乗せ、待機捕償料についても一部対象項目を見直し引き上げる方針です。協会としては、引き続きさらに実態に即した改善を要望しています。

今年度の協会事業計画のなかで安全推進については、市民総ぐるみ安全推進大会を開くほか、雪たい積場を含む除雪作業現場の安全パトロールの展開も盛り込まれました。

役員改選では、理事19人と監査2人を選任。乳井会長のほか、副会長の内沼勝氏（アイケン工業）と林義雄氏（道路工業）の留任も決議されました。

また、夏冬一体化に対応するため、委員会の組織変更も実施いたしました。夏の道路維持業務のレベルの統一と技術向上を一層図るため、新たに「道路維持委員会」（磯野進委員長・大成ロテック北海道支社）を設置。

「安全委員会」（廣田慎人委員長・東亜道路工業北海道支社）、「除雪委員会」（西村毅委員長・NIPPO道央統括事業所）とともに3つの委員会を運営していくこととなりました。

